

京都大学人文科学研究所共同研究 最終報告書

1. 研究課題

近代日本の宗教と文化

Modern Japan's Religion and Culture

2. 研究代表者氏名

高木 博志

TAKAGI, Hiroshi

3. 研究期間

2022年4月-2025年3月

4. 研究目的

近代日本の宗教と文化を考えたい。本研究で扱う宗教とは、仏教、キリスト教、国家神道、教派神道（金光教・黒住教・天理教・大本教）、民俗世界の信仰などである。そして文化とは、美術・工芸、音楽、文学、映画・芸能などにとどまらず、それらが政治、社会、教育、生活とも交差する、広義の「文化」とする。その上で、宗教と文化の問題を深めたい。たとえば「賊軍」士族の贊美歌、国家神道と教育儀礼や民俗文化、白樺派や柳宗悦やブレイクとキリスト教、京都画壇と本願寺など、課題は豊富である。また市井の庶民の信仰に迫るためにも、民衆史の方法や、宗教における史料論という課題を問いたい。最後に近代天皇制にも「宗教と文化」から迫りたい。

I wish to reflect on modern Japan's religion and culture. "Religion" here refers to Buddhism, Christianity, state Shinto, sect Shinto (Konkōkyō, Kurozumikyō, Tenrikyō, Ōmotokyō), and the world of popular beliefs. "Culture" refers not merely to arts, crafts, music, literature, film, and entertainment, but to their engagement with politics, society, education and life. This is culture in the broadest sense. And I hope to complicate the problem of religion and culture. The issues here are many and diverse: hymns by samurai on the losing side in the civil war; state Shinto and educational ceremonies and folk culture; the Shirakaba school, Yanagi Sōetsu, Blake and Christianity; and the world of Kyoto painting and Honganji inter alia. In order to approach the beliefs of the people at large, I adopt the methods of people's history and of religious history. Finally, I plan to use the "religion and culture" angle to get at the modern emperor system.

5. 研究成果の概要

全期間を通じて班員は約 30 人で 33 回の研究会、55 人の報告者を得た。最終年度において議論を進めてきたが、国家神道、仏教、キリスト教、教派神道などと、建築・都市・美術・文学・儀礼などの文化と、どう有機的につながるかが、問題となった。「近代日本の宗教と文化」というテーマ自体は新しい領域である。共同研究のメンバーである、谷川穣・田中智子らと 2016 年に『明治維新と宗教・文化』(講座 明治維新 11) の共著をつくったが、今回の共同研究成果報告書(2026 年刊行予定)では、連関する「宗教と文化」が、第一期の明治維新後の「近代」の時期と、第二期の 1923 年の関東大震災後に本格的に到来する「大衆社会」によりはじまる「現代から今日まで」の時期という、大きく二つの時代の変化に注目する。もう一つは「宗教と社会」という問題意識を持った論考群も用意する。なお 1 名の人文学連携研究者と、オブザーバーとして 3 人の博士課程の院生の参加を得た。若手の大学院生・人文学連携研究者からは共同研究を通じて、のべ 3 本の『人文学報』への投稿を得た。

6. 共同研究会に関連した主な公表実績

【出版】

高木博志編『人文学報 <特集：近代京都と文化>』(第 120 号、2023 年)

高木博志編『近代京都と文化：「伝統」の再構築』(思文閣出版、2023 年)

金智慧『明治歌舞伎史論：懷古・改良・高尚化』(思文閣出版、2023 年)

高木博志『近代天皇制と伝統文化：その創造と再構築』(岩波書店、2024 年)

北野裕子『染織の都 京都の挑戦：革新と伝統』(吉川弘文館、2025 年)

【公開シンポジウム】

2023 年 2 月 11 日「近現代天皇制を考える学術集会—「建国記念の日」に問う」(高木博志・紙屋牧子・樋浦郷子・佐々木政文・福家崇洋・小山哲、参加 120 名)

2023 年 11 月 5 日(時計台記念館・百周年記念ホール)、「レクチャー上映会 大正期の映画と民衆宗教—活弁士による『性は善』上映を通して」(富田美香・兒山陽子、参加 240 名)

2025 年 3 月 20 日「シンポジウム・近代京都、周縁からの創造」(高木博志・田中智子・谷川穣・福家崇洋)

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

共同研究のまとめとして『近代日本の宗教と文化』(思文閣出版、2026 年刊行予定、21 本の論文)、『人文学報一特集号：近代日本の宗教と文化』(2026 年 2 月刊行予定、7 本の論考予定)。